



宮古島市 neo 歴史文化ロード 綾道 平良南 / 松原・久貝コース



綾道

あや
ん
っ
ひら
なな
ま
ま
し
は
ら
く
が
い
平良南 / 松原・久貝コース



綾道

あやんつ

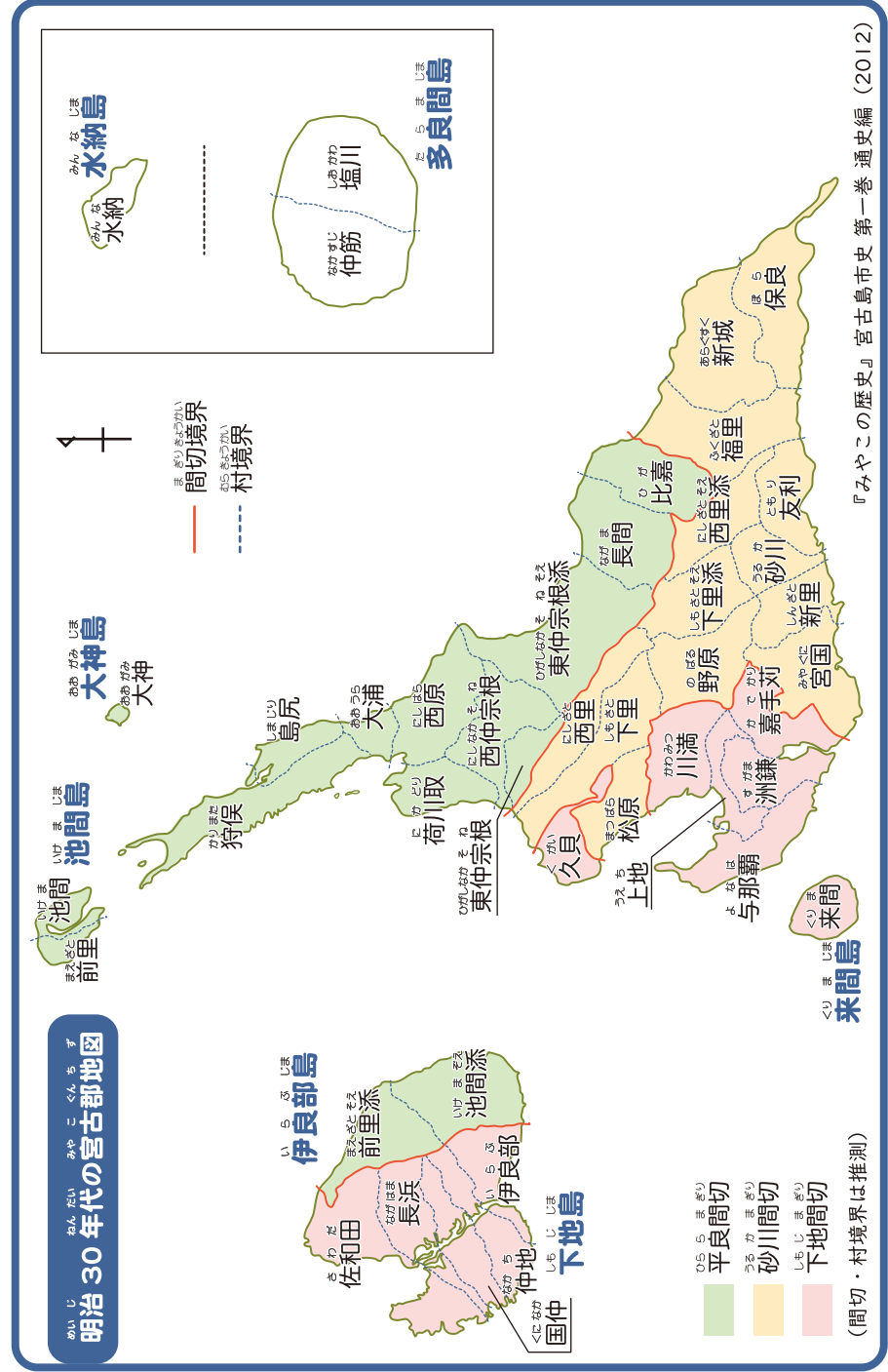
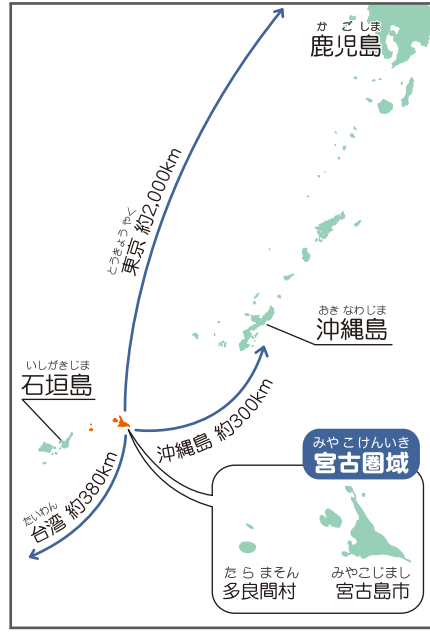
綾道
綾道
綾道
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

みやこしまし いちめんせき
宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204平方キロメートル、人口約5万6,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



『みやこの歴史』宮古島市史第一巻 通史編 (2012)



もくじ

みやこじまし ねし ぶんか りょうど 綾道 (ひらら みなみ コース・まつばら くがいのコース)

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

みやこじまし いち めんせき	宮古市の位置と面積	02
めいじ ねんだい ぐん ち ず	明治30年代の宮古郡地図	03
ひらら	平良	06
あざ	ひらら字まめちしき 北が西！?	07
ひららみなみさんさく	平良南散策マップ	08
いちば とお	3つの市場と3つの通り ~平良のまちの変遷~	10
はいしよ	ニーマトゥクルザー(ウプムトゥ) 拝所	12
よなはせど りゅうきゅう い	与那覇勢頭、琉球へ行く	13
もとむらけ ほうほん ひ し していうけいぶん か ざい てんせき	本村家「報本」碑 市指定有形文化財(典籍)	14
わひかさみこくじ けん ざん しよ けん	割重穀事件と讒書事件	15
うたき はいしよ	アツママー(阿津真間)御嶽 拝所	16
うたき はいしよ	アガスバリ(東原)御嶽 拝所	17
ひらら だいいちしょうがっこう せいもん いしがき し していうけいぶん か ざい けんぞうぶつ	平良第一小学校の正門と石垣 市指定有形文化財(建造物)	18
みやこ こうこう	宮古の高校のはじまり	19
し していてんねん き ねんぶつ ち しつ	ツツピスキアブ 市指定天然記念物(地質)	20
ば ば だん ち ば ば	馬場団地の「馬場」って?	22
みやこ ぐすくま せいあん にんとうせい	宮古のサトウキビと城間正安と人頭税	23
みねこうえん せき ひ しゅうこうじゅうたく	カママ嶺公園は石碑の集合住宅?!	24
みやこ くにせんたくむ けいみんぞくぶん か ざい	宮古のクイチャー 国選択無形民俗文化財	26
はりみず	漲水のクイチャー	27
かいがんせん ある	むかしの海岸線を歩いてみよう	28
めいしよ	ピキャズ 名所	30
うぶだていうぶどうぬ すらびゅう で あ	大立大殿と空広の出会い	31

うぶだていうぶどうぬ し していし せき	大立大殿みゃーか 市指定史跡	32
みやこ に だいいせりよく かんけい ず	宮古二大勢力の関係図	33
にし ばか し していうけいぶん か ざい けんぞうぶつ	西ツガ墓 市指定有形文化財(建造物)	34
しゅうへん い せきぐん	周辺の遺跡群	36
まつばら くがい ひさまつ	松原・久貝(久松)	38
ぬ ざき まつばら くがい いらぶ おもしろい かんけい	野崎と松原と久貝と伊良部のおもしろい関係	39
まつばら くがい ひさまつ さんさく	松原・久貝(久松)散策マップ	40
ひさまつ かいじん さい	久松の海神祭(ハーリー)	42
まつばら ししま し していむ けいみんぞくぶんか ざい	松原の獅子舞い(シーシャ) 市指定無形民俗文化財	44
ひさまつ こ けう し けんしゅうひ し せき	久松五勇士顕彰碑 史跡	46
とい ひさまつ こ けう し かいめい	問：久松五勇士のなぞを解明せよ	47
うたき はいしよ	ウブドマラー(大泊)御嶽 拝所	48
きょうだい きが れき し つく ぬ ざきよめ	7人兄弟を探せ! 歴史を作った!? 野崎嫁	49
ひさまつ きよ せき ばか ぐん し していうけいぶん か ざい けんぞうぶつ	久松みゃーか(巨石墓)群 市指定有形文化財(建造物)	50
うたき しゅううたき はいしよ	ウブザー御嶽(ソム又主御嶽) 拝所	52
うたき はいしよ	クジナ(久知名)御嶽 拝所	53
い どの し していし せき	ミヌズマ遺跡の井戸 市指定史跡	54
い せき まいぞうぶん か ざい	ミヌズマ遺跡 埋蔵文化財	55
い せき はくくつちようき ほうこく	ミヌズマ遺跡発掘調査報告	56
うたき はいしよ	スキラズマダニャーズ御嶽 拝所	58
みやこ うじせい れき し よ と	宮古の氏姓から歴史を読み解く	59
ぶんか ざい たいけい ず	文化財の体系図	60
ぶんか ざい いちれい	それぞれの文化財の一例	61

ひら 良



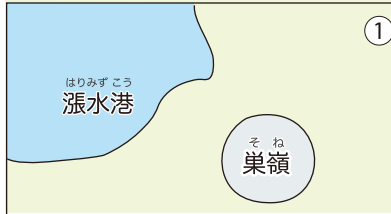
ひらら なまえ ゆらい みやこ ほうげん たい
 平良の名前の由来は、宮古方言で“平ら”であることを「ぴ
 さ、ひさ、なだら」と言い、人が住むのに適した平らな土地で
 あることを指しています。

ひらら いったい おうふ はけん ざいばん お はり
 平良の一带は、王府から派遣された在番が置かれたり、漲
 みず りょうこう しょうぎょう はってん ふる しま ちゅうしん ち
 水の良港があったことで商業が発展し、古くから島の中心地
 として着実に成長してきました。

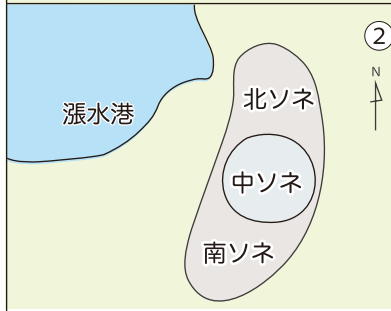
2005(平成17)年に5つの市町村が合併し、宮古島市平良と
 げんざい しまいちばん はんか がい さか
 なった現在も、島一番の繁華街として栄えています。

あざ きた にし ひらら字まめちしき 北が西！？

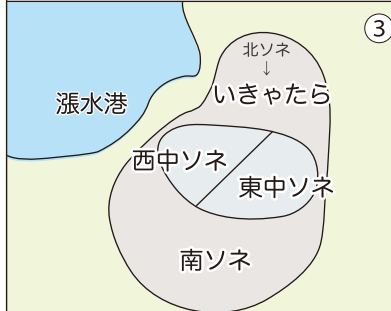
ひらら しゅうらく な た あざめい ず
 平良の集落の成り立ちと字名を図
 かい
 解すると…



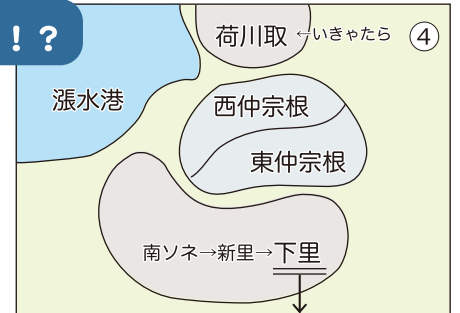
そね
 巣嶺に集落ができる。
 す おか さ
 →人が住む丘のことを指す



やがて集落が発展していき、
 なか きた みなみ ちいさ わ
 中・北・南に地域が分かれる。



さらに「中ソネ」が西と東に分かれ、
 ひがし
 北ソネはいぎやたらと名前が変化。



下里の由来
 ゆらい 北 上 ちげいてき み
 南 下 → 下の里 → 下里？
 「しんざと」が訛ったという説も

『雍正旧記(1727)』に記された村
 よう せい けい じ 1727 記 され た 村
 名。南ソネが下里に変化。仲・宗根は
 めい 南ソネ しもさと なか そね は
 当て字。いぎやたらも荷川取に。



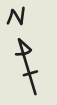
方言で北のことを「ニス」と言う
 ニス→にし→西と、全く違う漢字に変化

1766年、下里の北半分が西里に分
 1766 年 下里 の 北 半 分 が 西 里 に 分
 村。元来、ニス(北)の里となるはず
 村。元来、ニス(北)の里となるはず
 が転訛して西里と表されることに。

このように、宮古では方言の音に
 ちが い み ちいめい
 違う意味の字が当てられている地名
 が各所にあります。

平良・南散策マッパ

距離：約5キロ
所要時間：3~4時間

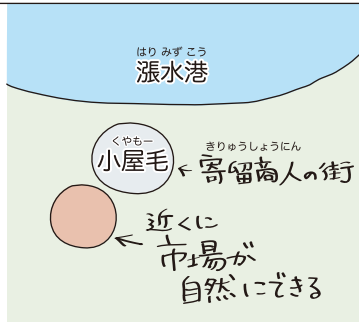


平良南

3つの市場と3つの通り～平良のまちの変遷～

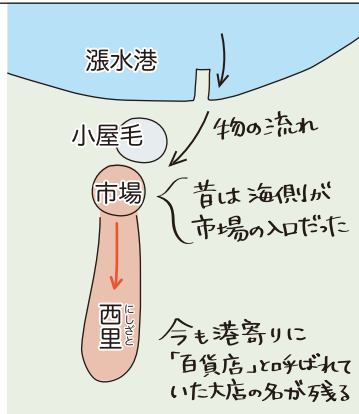
市場が生まれる

15世紀末から16世紀初頭、漲水港付近の小屋毛に、島外からの商人、いわゆる寄留商人が集落を築き、商売を始めました。やがてその付近に自然発生的に市場が生まれました。



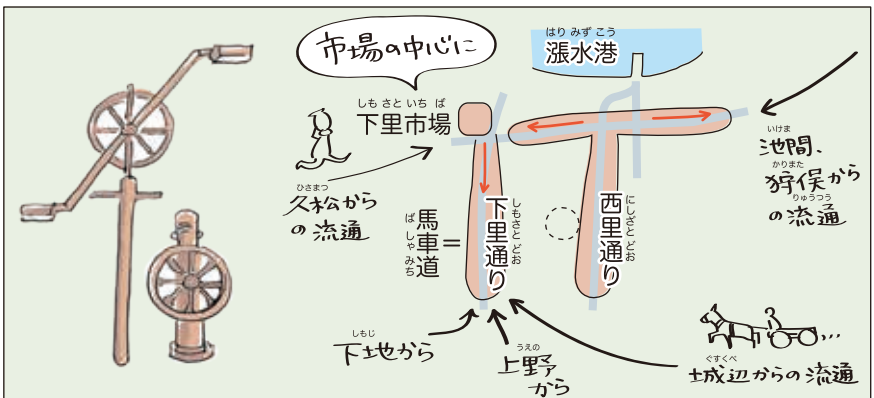
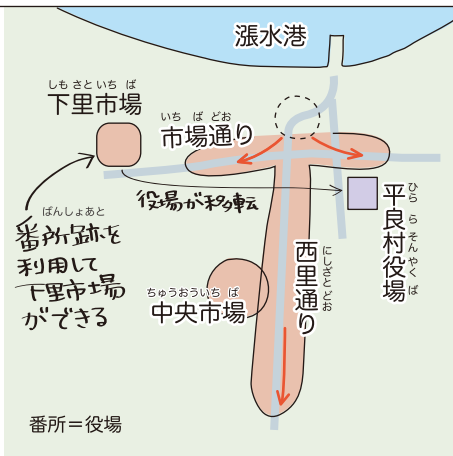
西里通りの誕生

取り扱う商品も増え、にぎわうようになると、手狭な市場から移転して商店をかまえるようになり、やがて「西里通り」が誕生します。島の物流は漲水港からやって来るので、海向きに一方通行になっている現在の西里通りとは、方向が逆でした。



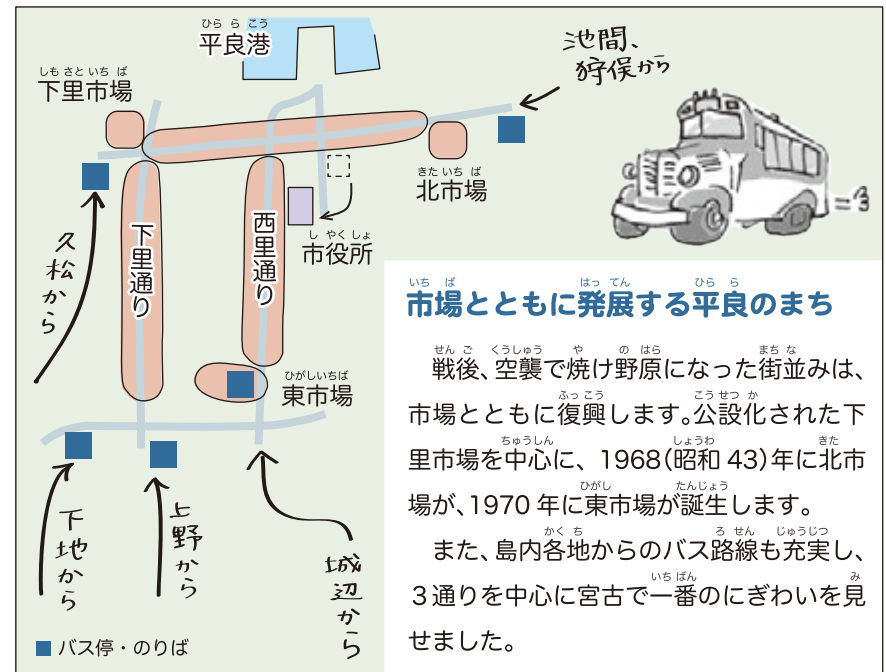
下里市場と市場通り、中央市場の誕生

1907(明治40)年頃「下里市場」が誕生し、西里通りへ繋がる市場通りが形成されます。下里市場には久松から鮮魚が届き、大変賑わいました。大正10年頃には西里通りに誰もが自由に売り買いしたり、物々交換ができる中央市場ができました。



下里通りの誕生

大正時代になると荷馬車などの普及と幹線道路の整備によって、島内の肉や魚、野菜などが下里市場に集まるようになります。下里通りは多くの馬車が往来していたことから「馬車道」とも呼ばれ、現在の下里通りの歩道タイルや駒止、街灯などは、馬車の車輪がモチーフになっています。



市場とともに発展する平良のまち

戦後、空襲で焼け野原になった街並みは、市場とともに復興します。公設化された下里市場を中心に、1968(昭和43)年に北市場が、1970年に東市場が誕生します。

また、島内各地からのバス路線も充実し、3通りを中心に宮古で一番のにぎわいを見せました。

ニーマトウクルザー (ウプムトゥ)



この拝所は、14世紀ごろの有力者であった与那覇勢頭豊見親の屋敷跡に由来するといわれており、「子孫繁栄・五穀豊穰の神(ウイカザーヌカミ)」として、与那覇勢頭豊見親が祀られていましたが、駐車場整備に伴い、消失しました。

与那覇勢頭豊見親は、1390(洪武23)年に、中山に初めて朝貢したとされる宮古の首長であり、文の人、仁徳の人としていまも人々に敬われています。



よなはせど りゅうきゅう い 与那覇勢頭、琉球へ行く

14世紀の中頃、佐多大人率いる与那覇ばらの一団は多くの兵を率いて村々を襲い、従わねばみな殺しにするという力による支配をしていました。与那覇ばらは、漲水港付近を拠点とするもうひとつの勢力、目黒盛率いる目黒盛軍にも攻め入り、窮地に追い込みますが、最終的には敗れ、敗走します。

その与那覇ばらの生き残りの中に、真佐久という子どもがいました。成長して一族を束ねるようになった彼は、同族の再興を図りたいと願い、白川浜で7日7夜の祈願を行うと、東方に自分たちを救う国があることを知ります。ある日、琉球の船が浜に漂着し、真佐久は船の人々から琉球や明国の話を聞き、琉

球こそが我々を救う国だと信じ、部下と共に白川浜から琉球へ向けて出帆します。無事に那覇の泊へ到着し、中山王の元へ向かうも、琉球の言葉が判らず困窮してしまいます。その様子に同情した中山王は、泊に屋敷を貸し与えて言葉などを学ばせました。3年後、ようやく言葉を習得した真佐久が中山王へ忠誠を誓い、力添えを頼むと、中山王から宮古の首長に任じられ、帰島します。

真佐久は人々から与那覇勢頭豊見親と呼ばれ、一族を再興させた人物として讃えられました。そして、1390(洪武23)年に、八重山の首長とともに中山へ朝貢をします。これが宮古・八重山の中山朝貢の始まりです。



与那覇勢頭豊見親顕彰碑(白川浜)、「与那覇勢頭豊見親沖繩島発見出発之地」と刻まれている。



与那覇勢頭豊見親逗留旧跡碑(那覇市泊那覇市の文化財に指定されている)。

本村家「報本」碑



この報本碑の書は、尚泰王時代の三司官(行政最高責任者)であった宜湾親方朝保(唐名=向有恒)が、向裔氏一門の下地の頭職、向朝祥(本村朝祥・在任1851~76年)に贈ったものです。碑には「同治甲子仲冬穀旦 向朝祥敬 報本 向有恒書」と刻まれています。報本とは家系の本である祖先と君主に「報いる」という意味があり、同じ向姓一門としての両者の関係を示していると考えられています。



割重殺事件と讒書事件

割重殺事件

琉球王政の末期、役人の中に税を勝手に割増し、差額分を着服する者がいました。

1849(尚泰2)年、島内の行政を監視し、役人の行動や不正などをただす立場であった本村朝祥らによって事件が摘発され、琉球王

府に報告されます。関係者は数十人に及び、役人13人が免職のうえ、流罪となりました。

これにより本村朝祥は下地の頭に任せられ、以来25年間、74歳の生涯を閉じるまで務めました。

讒書(落書)事件

1858(尚泰11)年、琉球王府から派遣されていた役人の宿舎に、王朝の批判が書かれた落書が投げられますが、犯人が不明なまま時間が経ちました。

2年後の夏、薩摩在番奉行所に宛てた訴状を商人に密かに託した事件が起こり、世は騒然となりました。

訴状の内容は王府にとって反逆行為に等しく、すぐに宮古在番に犯人の検挙が命ぜられました。

島内の文筆の才のあるものは全て疑いをかけられ、下地の頭本村朝祥も容疑者として、拷問を受けます。

過酷な取り調べの結果、前島尻与人の波平恵教が首謀となり、前多良間首里大屋子ら4人と共謀したものであることが判明し、朝祥は無実とされます。4人の共謀者は流罪となり、首謀者の恵教は3年間牢に入れられたのち、1863年に首を斬られました。

「報本」碑はこの翌年1864年に送られていることから、これらの事件に何らかの関係があるのではないかと考えられます。

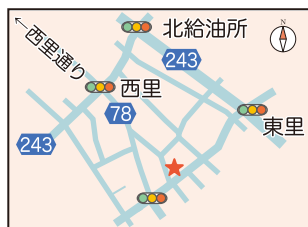
落書：政治・社会や人物などを批判・風刺した匿名の文書

アツママー(阿津真間)御嶽



アツママー御嶽は、男神「にーらうぶ天太」うぶ張又主が祀られています。張又主とは人の行いを記帳する者という意味で、『宮古島庶民史(1957)』には、死後の世界の入り口で生前の行いをもとに審判を下す神と記されています。かつては奉納角力が行われるような盛大な祭り行事がありました。今でも学問の神として、多くの参拝者が訪れます。

※宮古史伝では、子方母天太を母とする12方の神々のうち、蒲戸金主が祀られていると記されています。



アガスバリ(東原)御嶽



この御嶽は目黒盛豊見親の子孫の屋敷跡に由来する拝所で、中には「目黒盛豊見親之霊位」が建立されています。目黒盛の子孫が始祖を選拝するために作ったものとされ、現在では里御嶽として参拝されています。目黒盛は14世紀中頃の豪族で、与那覇ばらの一団を打ち破り宮古島を統一したとされています。また、その子孫として仲宗根豊見親などの統治者が生まれています。



平良第一小学校の正門と石垣



平良第一小学校の敷地を囲う石垣は、1932(昭和7)年頃に築かれたと考えられています。上野線(県道190号)に沿った南側は校地拡張により消失しましたが、校地北側の旧正門を含む、3辺の石垣は現在も残されており、間知積みや布積みといった当時の石造技術を知ることができます。平良第一小学校は歴史のある学校で、文献では1823(道光3)年まで遡ることができます。



宮古の高校のはじまり

おきなわけんりつみやここうとうがっこう きゅうせいもん
沖縄県立宮古高等学校 旧正門



おきなわけんりつみやここうとうがっこう りとうはじ
沖縄県立宮古高等学校は離島で初めての高校です。1928(昭和3)年

おきなわけんりつみやここうとうじょがっこう
沖縄県立宮古高等女学校
・宮古女子高等学校跡地之碑



かつて「宮高女」の愛称で親しまれた沖縄県立宮古高等女学校は、女子の高等教育の機会を求めて、1936(昭和11)年に宮古郡町村組合立宮古高等女学校として開校しました。開校直後の11月には、下里馬場(現在の市営馬場団

に開校した沖縄県立第二中学校宮古分校(現在の県立那覇高校)として設置され、翌年に旧制・宮古中学校となります。1948(昭和23)年の学制改革で、「沖縄県立宮古高等学校(新制)」となりました。校舎は幾度となく改築されていますが、正門は当時の姿を残しています。

地)で催された「ドイツ皇帝感謝碑建立60周年記念式典」で、ダンスを披露するなど、早くから活躍を見せました。創設時からの度重なる陳情の末、1940(昭和15)年に念願の県立化が果たされ、1948(昭和23)年の学制改革(新制)によって宮古女子高等学校に名を改めます。1954(昭和29)年、共学化が図られ、当時男子校だった県立宮古高校と合併、「宮女」は廃校となりました。現在、旧校地は県立宮古高校の野球場となり、宮高女・宮女を偲ばせるものはこの記念碑だけとなっています。